

こ と いちばのkoto通信

発行：京都市中央卸売市場第一市場
京都市下京区朱雀分木町80番地
電話(075)312-6564

第3号

平成30年12月

農家の皆さまと京都市中央卸売市場第一市場（京都市中央市場）をつなぐ情報誌「いちばのkoto通信」。京都市中央市場の魅力やお役立ち情報など、皆さまの気になる事をお届けします！

卸担当者との交流が肝！

今回は、卸売会社 京都青果合同(株)の王子さんと一緒に、若手後継者 野村さんの農地を訪問し、お話を伺いました。



野村 和弘さん（39歳）《伏見区下鳥羽》
14年前に実家でUターン就農。下鳥羽などの農地 約1haで、キャベツ、九条ねぎ、ほうれん草等の露地栽培を行うほか、トマトをハウスで栽培。ハウスの裏作として、万願寺とうがらしの栽培にも着手。

野村

生産量のほぼ全量を京都市中央市場に出荷しています。市場出荷の最大のメリットは、卸担当者との交流です。日々の相場に基づき、最適な出荷量などをアドバイスいただけるので、計画的に農作業が進められ、経営の効率化につながっています。

王子

特に近郷部門は、卸担当者と生産者が顔を合わせる機会が多いため、強い信頼関係を築けています。その関係があるから、より一層生産者の立場に立って販売できます。

野村

ハウス栽培の裏作に万願寺とうがらしを導入したのも、王子さんのアドバイスがきっかけです。

王子

野村さんは提案を前向きに検討いただいているので、営農相談に力が入ります。

野村

京都市中央市場に足を運び、他の生産者が出荷された高品質な農産物を見ることも、良い刺激になります。

王子

近郷部門は高いせり割合が保たれているからこそ、生産者の高い選別技術が守られていると言えますね。

野村

せりは勝負の世界なので、他の生産者との差を実感できるのも醍醐味の一つです。せりは、営農意欲の向上にもつながります。

京都市中央市場の特徴である「近郷卸売市場」と「せりの文化」は市場整備後も残してほしいです。



今後の市場整備により、さらに力強く京都ブランドを発信できる施設となることを期待しています

野村 和弘さん

京果近郷担当
王子さん

次世代を担う農業者向け市場見学会 開催

- ① 日時 平成 31 年 2 月 26 日（火）午前 6 時から（2 時間程度）
- ② 場所 京都市中央卸売市場第一市場 青果卸売場
- ③ 内容 ◆ せり見学 ◆ 市場へのお荷方法等の説明 ほか
- ④ 対象者 新規就農者、若手後継者、農業法人等
- ⑤ 募集人数 20 名（申込み多数の場合は抽選）
- ⑥ 申込方法 参加される方の氏名、年齢、連絡先を 電話又は FAX にて 右記申込先へ御連絡ください。



昨年度の見学会風景

●申込先
京都市中央卸売市場第一市場 業務グループ
電話 (075) 312-6564
FAX (075) 311-6970
●申込期限
平成 31 年 2 月 15 日（金）

教えて！京都市中央市場！

Q 出荷したいのですが、京都市中央市場のどこに行けばいいですか？

A 近郷部の荷受所を目指してお越しください。

出荷経路は下図のとおりです。

出荷の2～3日前までに卸売会社（京果：315-8227）にお電話くださると、より円滑にご出荷いただけます。



1 西方面より
JRの高架を越え、五条千本交差点を右折



2 東方面より
JRの高架の手前、五条千本交差点を左折



3 千本通上に架かる一つ目のアーケードを左折



4 少し進むと、右手に近郷部の荷受所が見えてきます。

Q 栽培品目に迷っています。生産量が減少している品目はありますか？

A 京の食文化に欠かせない京野菜は常に需要がありますが、京都で生産される野菜は全体的に減少しています。特に、ほうれん草などの軟弱類やナスなどの果菜類が不足しています。卸売会社（京果）では営農相談にも応じていますので、お気軽にご相談ください。



京果の出前トーク実施！

（出荷組合や農協等の団体対象）

出荷者大募集！

出荷方法が分からないので教えて

卸売会社の話を聞いてみたい

市場の見学にもお気軽にお越しください

新たに出荷を考えている方の要望や相談事にお応えします
ぜひご連絡ください！

出荷・出前トークのお問合せ先
京果 近郷部（担当：磯部・安田）
Tel (075) 315-8227